

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島市立古田中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 7 3 3 - 0 8 7 4

広島県広島市西区古江西町 27 番 1 号

E-mail huruta-j@e.city.hiroshima.jp

Website <http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1043>

幼児児童生徒数 男子 377 名 女子 409 名 合計 786 名

幼児・児童・生徒の年齢 1 2 歳 ~ 1 4 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

※報告書提出時点~平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「明るくたくましく、自ら考え実行し、思いやりのある生徒の育成」を学校教育目標としている。総合的な学習の時間においては、「平和」をテーマとした横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、国際社会における様々な問題と自らの日常生活や身近な社会を結びつけて課題を見つけ出し、よりよく解決する資質や能力を養うとともに、主体的、協同的に取り組む態度を身に付け、自己の生き方を考えることができることを目標に取り組んでいる。

具体的には、1 学年ではヒロシマから考える平和。2 学年ではヒロシマ・ナガサキや日本から考える平和。3 学年では国際社会の平和について学習をしている。

① ヒロシマから考える平和

1 学年では、ヒロシマの平和について自分の日常生活と関連づけて課題を見つけ、解決するための方法を考え、発信することで、ヒロシマの平和について深く考える力を育てることを目標としている。

そのために、川崎市折り鶴の会 会長 森政 忠雄 氏 他古田小出身者(昭和20年卒業)から原子爆弾の基本知識や実際の被爆体験を聞き、平和について考える集会を行った。また、平和記念公園でのフィールドワークを行うことで、被爆の実態をより深く学習した。その学習を各班で新聞にまとめ、発信した。



② ヒロシマ・ナガサキや日本から考える平和

ヒロシマ・ナガサキや日本の平和について自分の日常生活と関連づけて課題を見つけ、解決するための方法を考え、発信し、討議・議論を行うことで、日本の平和について深く考える力を育てることを目標にしている。

ナガサキのフィールドワークでは平和記念資料館や一本柱鳥居・被爆クスノキを巡ることで、ナガサキの原爆の実態を学び、ヒロシマだけでなく、日本の平和について学習した。



③ 国際社会の平和

国際社会の平和に関わる問題を自分の日常生活と関連づけて課題を見つけ、解決するための方法を考え、その考えを発信することで、世界の平和について深く考える力を育てることを目標にしている。「平和な社会を築いていく人間として、私たちはどんなことを考えなければならないのか」をテーマにグループに別れ、考えを発信した。

また、ヒロシマに住む中学生とヒロシマを訪れる観光客が平和へのメッセージを交換することにより、平和への思いを共有し、平和の循環を図ることを目的とし、生徒が書いた折鶴付きの平和へのメッセージカードをピースホテルネットワーク宿泊施設に滞在する観光客に贈り、そのメッセージに対する返信を記入してもらう取り組みを行った。それにより、世界各国のひととのつながりを感じることが出来た。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主体的に学ぶ生徒を育てるために、生徒同士が学び合う活動を行い、共同学習を活用し、互いの関わりを大切にしている。
各学年でテーマについて自らの課題を探し、その課題をどのように解決するのか、情報の収集→整理・分析→まとめ・表現というように学習を進めた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌の教務を中心に3年間を見通し体系的に取り組んでいる。また、生徒会が中心となり、ユニセフ街頭募金に参加し、学校全体として一貫した取組を行っている。また、また2年生が長崎へフィールドワークへ行く際には全校生徒の平和の思いを折り鶴にし、代表として献納した。後日全校生徒への報告を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケート（5段階評価）を生徒に実施したところ、「仲間を大切にするために行動するという」項目において、昨年7月から今年11月にかけて、4.29ポイントから4.55ポイントに伸びた。このことから、自ら考え、思いやりをもって行動する生徒が増えてきたといえる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

世界唯一の被爆国として、ヒロシマ・ナガサキの原爆の惨状を学び、生徒に課題意識を持たせ、生徒自身の設定した課題を解決するために、それぞれの被爆地を訪れ、情報収集を行った後、自らの考えを新聞にまとめ、保護者・地域の方に情報を発信した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

川崎市折り鶴の会 会長 森政 忠雄 氏 他古田小出身者(昭和20年卒業)から原子爆弾の基本知識や実際の被爆体験を聞き、平和について考える集会を行った。
広島市経済観光局光政策部主催の「平和のメッセージ交換事業」に参加し、広島を訪れる観光客の方に中学生からの平和のメッセージをお送りした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に交流を行っていません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクール加盟校という自負をもち、生徒会活動やボランティア活動に自主的に参加する生徒が増加した。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度同様、3年間で一貫した学習活動を計画している。1年目にはヒロシマから考える平和。2年目にはヒロシマ・ナガサキや日本から考える平和。3年目には日本から世界に発信する平和について学習する予定である。